

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



エリア・コンサルティングで生駒氏からアドバイスを受ける三田村さん

昨年夏、レクサスギャラリー・高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本当に欲しくなるプロダクトか?」「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行

わ。匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのバイヤー、メディア、デザイン関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催・・・レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

無形文化遺産の細川紙と漆を合わせて、意外性をつくりだす。

三田村 雨龍 埼玉県／木彫漆芸家

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出そうとしているレクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。埼玉県選出の匠、木彫漆芸家・三田村雨龍さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。



1月18日、プレゼンテーションにて

江戸時絵師十代目・三田村有純氏の長男として生まれた埼玉県匠、三田村さん。幼い頃から父の作る作品に触れ、黙々と作業に没頭する姿を見ながら育った三田村さんがこの世界に進むことを選んだのは自然な流れだったのかもしれない。16歳の時、一年間をかけてヨーロッパ11カ国の美術館や博物館を訪れ、芸術の感性を磨いた。高校卒業後には、岩手県の漆芸研究所で学び、その後富山県の木彫工芸訓練校に進み、5年間木彫の勉強に励んだ。



プレゼンテーションをする三田村さん

地域に貢献できる仕事をしてみたい

今回のプロジェクトに応募するにあたって、三田村さんが取り組んだのは、和紙と漆の融合だ。5年前、広いアトリエを求めて埼玉県小川町に移り住んだ。小川町は隣接する東秩父村とともに、古くから手すき和紙(細川紙)の産地として有名で、2014年11月にユネスコ無形文化遺産に登録



細川紙をすく作業風景

地域の特性をプロダクトに

された「和紙のふるさと」。小川町に来たのも何かの縁。地元で貢献できるような仕事ができればと、かねてから考えていたそう。

今回完成させたプロダクトは「楮漆器(こうぞしつき) SWING CUP」と「櫻(けやき)和紙着せ重ね金銀漆天目蒔絵「蓮HASU」」

SWING CUPは、和紙の原料である楮だけを木型に当てて固めていく方策を取った。木に和紙を貼って漆を塗る技術は、割れ防止のためにも昔からある技法だが、

今回はあえて新たな手法に挑んだ。より強度を持たせるために、器の両面に漆を約30回塗り重ねた。1回の作業で塗る漆の厚さはわずか0.03mm。一度塗った漆が固まるまで一



漆を何度も何度も重ね塗りする



今回完成した作品「SWING CUPと蓮HASU」

日から三日待つ根気のいる作業だ。温度、湿度を徹底管理した漆風呂と呼ばれる部屋で、漆器たちは強度と輝きを得て、まさに命を吹き込まれていく。

植物繊維のふわふわした状態のものを固めたため、器の底は安定感に欠けていた。「ゆるるぐい呑み」も面白いと考

えていたが、サポートメンバーの生駒氏から「実際に使ってもらえるものだから、安定

感を出したほうがいい」とアドバイスを受け、ゆるれる良さはそのままに、器を載せるリング状の台座を付け、安定感を持たせた。

蓮HASUは、行田市にある古代蓮の里まで足を運び、蓮の花をイメージして作り込んだ。ここでも地元を意識した匠のこだわりが垣間見える。

埼玉県産の櫻(けやき)を、一枚板から叩き彫りした蓮に和紙を貼る。これは和紙着せという古来よりある伝統的な技法だ。最後に代々受け継がれ



三田村 雨龍 埼玉県／木彫漆芸家

1982年赤塚派江戸時絵師十代・三田村有純の長男として、東京都武蔵野市に生まれる。2004年岩手県安代町立漆芸研究所卒業。富山県井波で5年間前川正治氏に木彫師事。2011年NPO法人APOCで木彫指導。展覧会出品多数。個展2回。現在は埼玉県小川町のアトリエにて制作中。彫り塗り蒔絵と和紙で、木や樹液の命を造形に込めた現代漆作品を目指す。



ふわふわした状態の楮を木型に固めていく



和紙の原料である楮の木とともに(小川町)



作品への熱い思いを語る

